

学 校 用 オ ル ガ ン

---

SE-5000

---

取 扱 説 明 書

YAMAHA

このたびは、ヤマハ学校用オルガンSE-5000をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

学校用オルガンSE-5000は、楽器づくりの経験豊かなヤマハが最新の技術を駆使し指導用オルガンの一層の充実をめざして開発した画期的なオルガンです。

ご使用にあたりましては、この取扱説明書を一読のうえ、SE-5000の機能を充分にご活用いただき、末永くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お読みになった後は大切に保管して下さい。わからない事や不具合が生じた時、きつとお役に立ちます。

## 目次

主な特長／仕様	2
安全上のご注意	2~3
各部の名称	4
操作と機能	5
フロント操作部とペダル	5
外部入出力端子とディスクレコーダー	6
ディスクレコーダーの操作について	7
フロッピーディスクについて	7
フォーマットについて	8
録音のしかた	9
再生のしかた	10
再生パート	11
繰り返し	11
テンポについて	13
エラーメッセージについて	13
MIDIについて	14
MIDIとは	14
接続方法について	14
楽しみ方の例	14
MIDI参考資料	15
SE-5000 MIDI インプリメンテーションチャート	16
故障とお考えになる前に	17
保証とサービス	18

## 主な特長

### 1. 美しくクリアーな音色

音づくりにヤマハ独自のAWM+4オペレータFM音源方式を採用。美しくクリアーな音色を実現しました。

### 2. 多彩な音色

音色は鍵盤楽器から管楽器、弦楽器まで16種類、さまざまなアンサンブル活動にも大きな効果を発揮します。

### 3. 教室の隅々まで届く豊かな音量

アンプは30W。25cmウーハーと5cmツイーターの2ウェイスピーカーと相まって、背面から豊かな音が響きます。

### 4. 教室での使用を考慮した新設計

- 丈夫な電源コード、鍵盤蓋にトーションバネとダンパーを採用するなど安全性への配慮も万全です。

### 5. ディスクレコーダーを搭載

- 3.5インチフロッピーディスクを使用して、演奏した内容を再現することができます。
- 演奏内容は、フロッピーディスクに保管されますので、ディスクを持ち運べば、どのSE-5000でも聞くことができます。

### 6. MIDI対応

MIDI端子を装備。これからの時代に対応し、演奏の幅を広げます。

## 仕様

音源	AWM+4オペレータFM音源
同時発音数	16音(リズム8音:ディスク再生時、MIDI受信時)
鍵盤	61鍵 Cスケール (5オクターブ)
音色	<p>16音色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノ、リードオルガン、パイプオルガン、ハーブシコード、グロックン、箏、フルート、オーボエ、クラリネット、トランペット、ホルン、チューバ、バイオリン、ストリングス、コントラバス、ピッチカートバス</li> </ul> <p>(MIDI受信時の場合、上記以外に44音色及びリズムの再生ができます)</p>
効果	ビブラート、サステイン、リバーブ
コントロール	チューニング、移調、音量、エクスプレッションペダル、電源スイッチ
外部入出力端子	ヘッドホン、ライン入力、ライン出力、サステインペダルスイッチ、MIDI(IN、OUT)
ディスクレコーダー	テンポ(LED表示付)、曲選択/早戻し、早送り(LED表示付)、繰り返し、再生/一時停止、停止、録音、再生パート(パート1、パート2、パート3、パート4)
メインアンプ	30W (8Ω)
スピーカー	ウーハー 25cm(8Ω) ツイーター 5cm(8Ω)
消費電力	30W (AC 100V 50/60Hz)
寸法	間口 93.6cm、奥行 43.0cm、高さ 81.3cm(フタを開けた状態 106.7cm)
重量	38kg
仕上げ	えんじゅ柘目
標準装備品	椅子 3.5インチ生フロッピーディスク

# 安全上のご注意



ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や周りの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもおお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

## 記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	<b>注意</b> 感電のおそれあり キャビネットをあげるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	--------------------------------------	---	---

⚠ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

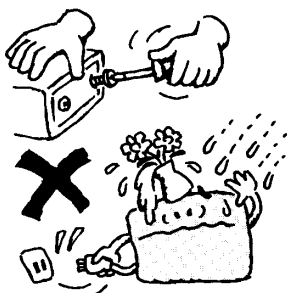
\*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



⊘ 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。万一、雨が降ったり、花瓶などの水をこぼした時は至急、お買い上げの楽器店または取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

● 電源は必ず交流100Vを使用する。  
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

⊘ 使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

⊘ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

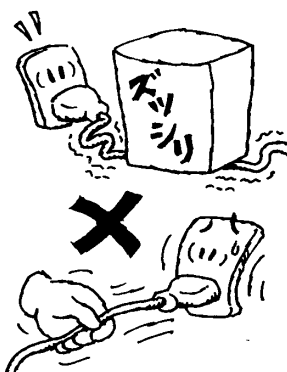
● 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。



## 注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



● 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

⊘ タコ足配線をしない。コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

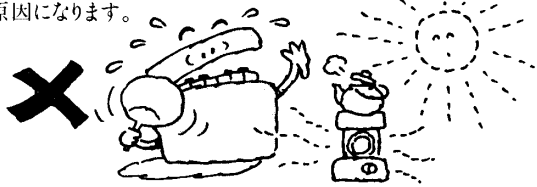


⊘ 電源コードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。

● 手入れまたは移動をするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。プラグが変形するおそれがあります。

❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。  
感電または機器の損傷のおそれがあります。

⊘ 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。  
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。



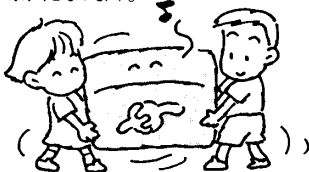
⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。  
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



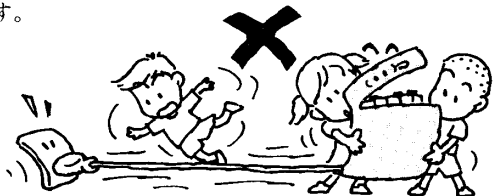
⊘ 本体を壁につけない  
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。

⊘ 不安定な場所に置かない。  
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

❗ 本体を移動するときは、転倒や衝撃を与えないよう静かに運搬する。  
「フロッピーディスクドライブ」という精密機械を搭載しています。衝撃は故障の原因となります。



❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。  
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。  
本体が破損する原因になります。



❗ オルガン付属の専用椅子、または別にお求めのオルガン椅子は、オルガンの演奏用以外に使用しない。  
●オルガンの椅子を遊び用具や踏み台にすると、椅子が転倒したり壊れたりして、事故につながるおそれがあります。  
●同時に二人以上で使用すると、姿勢や椅子に無理が生じ、事故につながるおそれがあります。オルガンの椅子は二人以上で使用しないでください。  
●椅子の脚はボルトで締め付けてあります。長い間使用していると、ゆるんでくる場合がありますので、ときどき締め直しをお使いください。



⊘ ディスクレコーダーのディスク挿入口にディスク以外の物を差し込まない。  
ディスク挿入口には、3.5インチフロッピーディスク以外の物を挿入しないでください。ディスクドライブが正常に作動しなくなるおそれがあります。  
フロッピーディスク及びフロッピーディスクドライブはゴミやほこりを嫌います。フロッピーディスクが挿入されたままですと、ほこりが入りやすくなりますので、ご使用後は、フロッピーディスクドライブからディスクを抜きましょう。



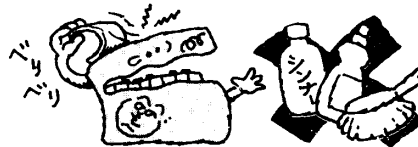
⊘ 大きな音で長時間ヘッドフォンを使用しない。  
聴覚障害の原因になります。



❗ ヘッドフォンを振り回さない。  
人に当たってけがをする恐れがあります。

⊘ 落書をしない。  
マジックやボールペンで落書をしますと消すことができません。いつまでも大切にきれいにお使いください。

⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。  
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

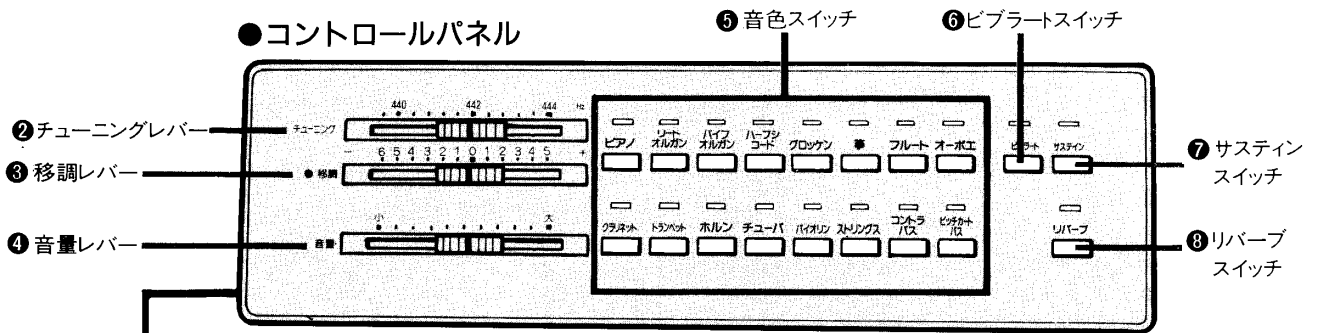


❗ 長時間使用しないときは、必ず電源を切る。

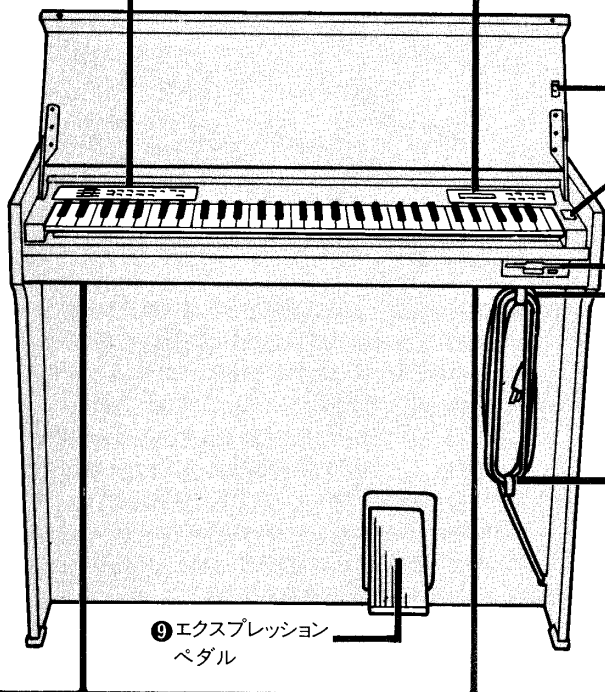
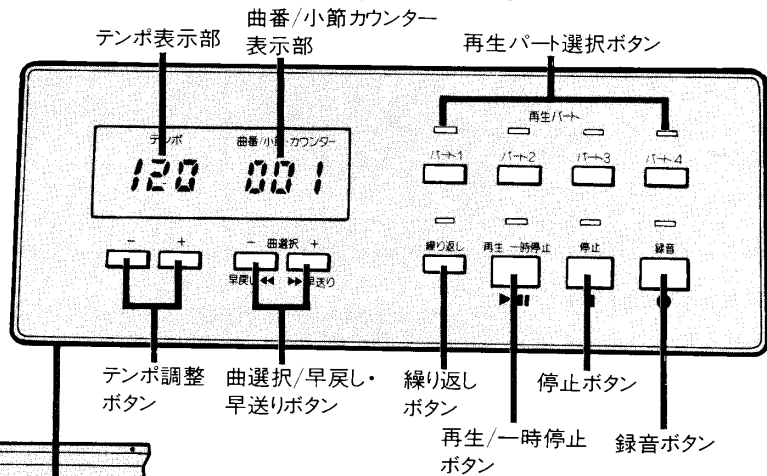
不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

※この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

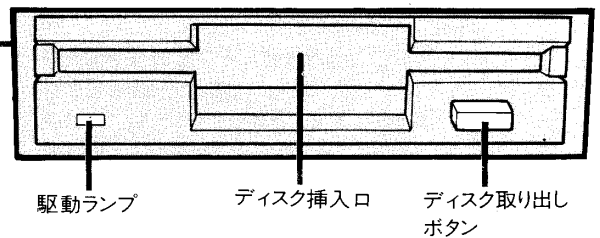
# 各部の名称



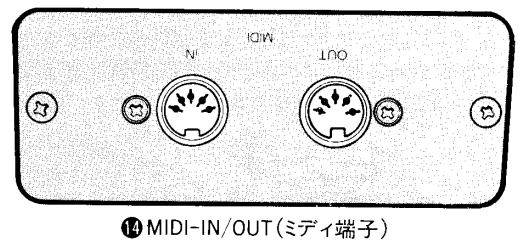
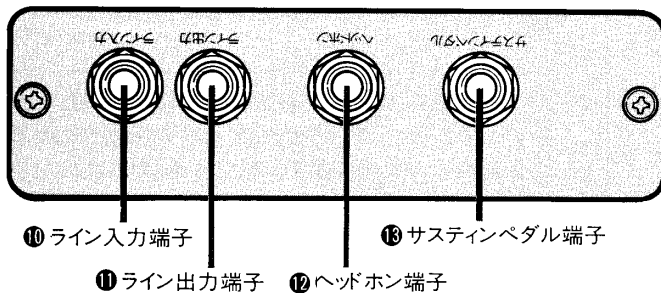
## ●ディスクレコーダーコントロールパネル



## ●ディスクドライブ



## ●外部入出力端子



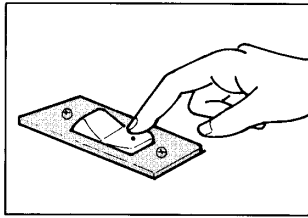
# 操作と機能

## フロント操作部とペダル

### ① 電源スイッチ/スイッチ押さえ

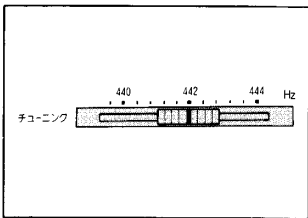
電源スイッチを入れると、音色スイッチの[ピアノ]のランプと[リバーブ]のランプが点灯します。

電源を入れて3秒程すると演奏可能な状態になります。スイッチ押さえは、電源スイッチを切り忘れてもフタを閉めた時に自動的にスイッチを切る仕組みになっています。



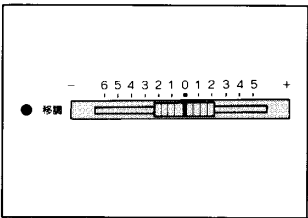
### ② チューニングレバー

音の高さを調整するレバーです。チューニングの範囲は、A = 439.4Hz(ヘルツ)から444Hz(ヘルツ)で、通常は442Hz(ヘルツ)のところにレバーをセットします。



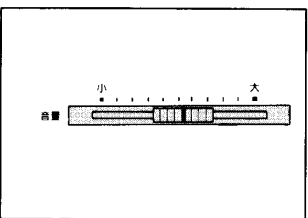
### ③ 移調レバー

音程を変化させる時に使います。1目盛で半音ずつ変化します。レバーを[0]にセットするとランプは消えます。電源スイッチを入れると、レバーが[0]以外の場所にセットされていてもランプは消えており、移調されていません。レバーを動かすとランプが点灯し、その目盛の値で移調されます。

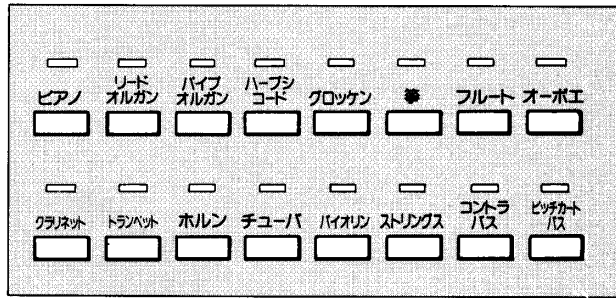


### ④ 音量レバー

全体の音量をコントロールするレバーです。エクスプレッションペダルをいっばいに踏んだ時の最大音量は、このレバーの位置により決まります。レバーを右にスライドさせるほど音は大きくなります。



### ⑤ 音色スイッチ



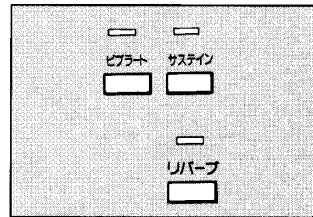
音色を選ぶスイッチです。電源スイッチを入れると、[ピアノ]と[リバーブ]のランプが点灯します。

なお、フルート、オーボエ、バイオリン、コントラバスの音色を選ぶと自動的にビブラートスイッチがONになり、ランプが点灯します。ビブラートが不要の場合は、ビブラートスイッチを押してOFFにします。

※チューバ、コントラバス、ピッチカートバスの音色を選ぶと、音域が自動的に1オクターブ低くなります。また、グロッケン音色を選ぶと1オクターブ高くなります。

### ⑥ ビブラートスイッチ

音が揺れる効果を加えます。スイッチは、ON/OFFで、ONの時にはランプが点灯します。



### ⑦ サステインスイッチ

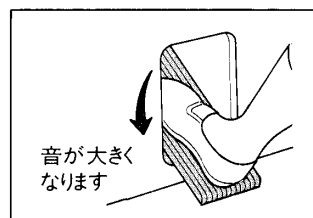
鍵盤から指を離れたあと、音に余韻を持たせる効果です。スイッチは、ON/OFFでONの時にはランプが点灯します。

### ⑧ リバーブスイッチ

臨場感のある広がりを与える効果です。スイッチは、ON/OFFでONの時にはランプが点灯します。電源スイッチを入れると、いつもリバーブはONになります。

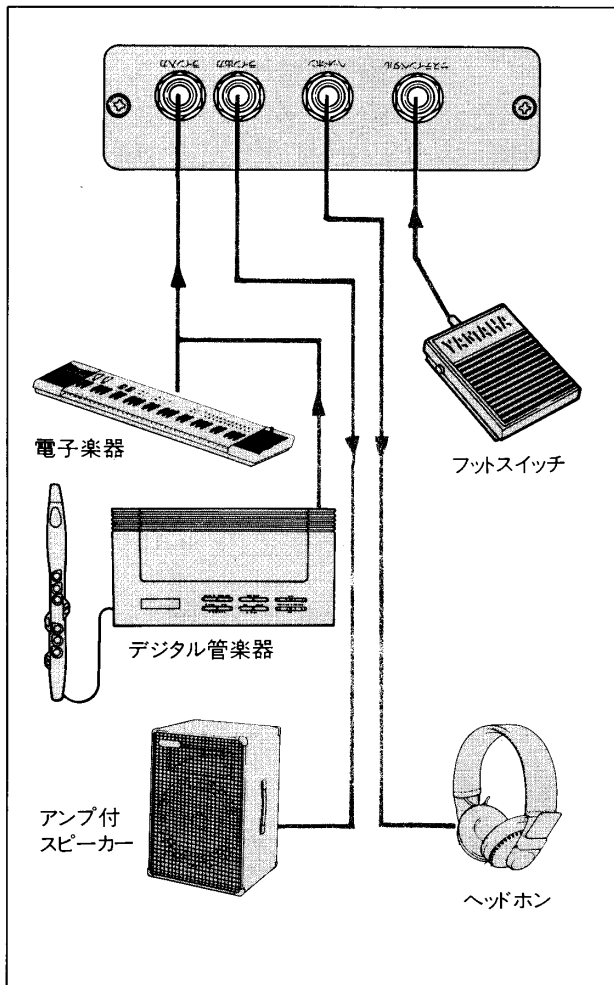
### ⑨ エクスプレッションペダル

音量をコントロールするペダルです。踏み込む深さによって音量をコントロールできますので、演奏中、音に強弱をつけることができます。また、ライン出力の音量も加減できます。音の大きさは、音量レバーでセットした位置が最大音量となります。\*ディスクレコーダーで再生中の音量はエクスプレッションペダルで変化しません。



# 操作と機能

## 外部入力端子とディスクレコーダー



### ⑩ ライン入力端子

他の電子楽器等の音をオルガンのスピーカーから出したいときに使います。

### ⑪ ライン出力端子

アンプ内蔵スピーカーに接続して、より迫力のあるサウンドを楽しむことができます。

※ライン出力端子とライン入力端子を同時にテープレコーダーに接続しないで下さい。故障の原因になる場合があります。

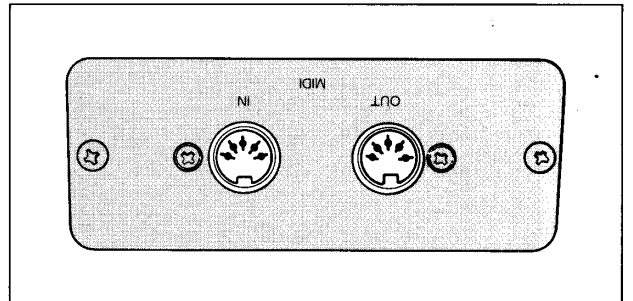
### ⑫ ヘッドホン端子

ヘッドホン接続する端子です。ヘッドホン使用時には、オルガン本体のスピーカー及びライン出力からは音が出なくなります。

### ⑬ サスティンペダル端子

FC-4、FC-5等のフットスイッチを接続すると、サスティンのON、OFFをフットスイッチでコントロールすることができます。フットスイッチを踏んでいる間だけ、パネルのサスティンランプが点灯し、効果がかかります。

### ⑭ MIDI-IN/OUT(ミディ端子)

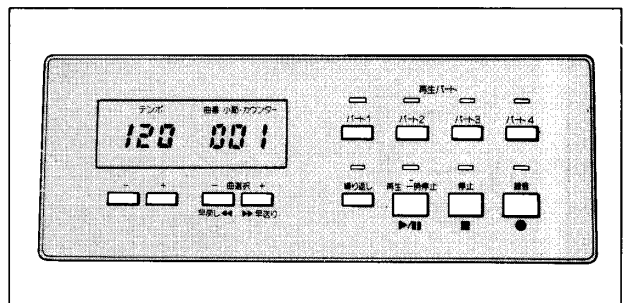


MIDI (Musical Instrument Digital Interface)は、デジタル電子楽器の世界統一規格です。

別売のMIDIケーブルを使って、MIDI対応のシンセサイザーやシーケンサーなどと接続すれば、多彩な演奏ができます。

※MIDI-IN端子にMIDIケーブルを接続すると、ディスクレコーダーは再生機能が働きません。また、再生中にMIDI-IN端子にMIDIケーブルを接続すると誤動作することがありますので、絶対に接続しないで下さい。

### ● ディスクレコーダー



3.5インチフロッピーディスクにSE-5000で演奏した音を録音、再生するものです。

詳しくは、「ディスクレコーダーの操作について」をお読みください。

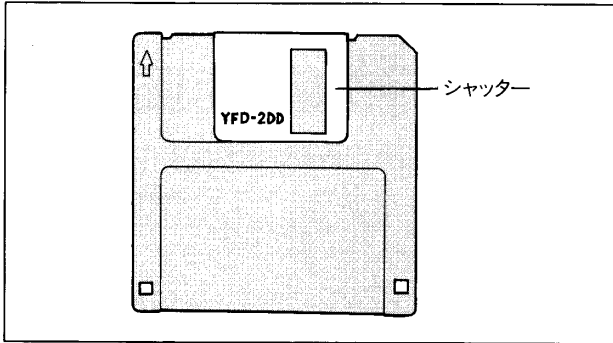


# ディスクレコーダーの操作について

## フロッピーディスクについて

### ●フロッピーディスクの規格について

SE-5000で録音・再生に使用できるフロッピーディスクは、両面倍密度倍トラック(2DD)の3.5インチフロッピーディスク(推奨品:ヤマハ・YFD-2DD)です。



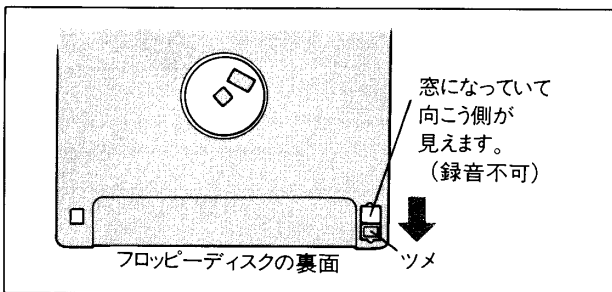
### ●フロッピーディスクの取り扱いについて

- フロッピーディスクのシャッターをスライドさせて磁性体面に触れないで下さい。また、煙やスプレーを吹きかけたりしないで下さい。磁性体面に汚れが付着したり、傷がつくと使用不可能になることがあります。
- ホコリの少ない場所でご使用下さい。
- テレビやラジオ、スピーカーなど、磁気を帯びたものに近づけないで下さい。
- 温度条件は4℃～52℃です。4℃以下や52℃以上になる場所に保管しないで下さい。
- シャッターが上下に開いているような変形したフロッピーディスクは使用しないで下さい。ディスクレコーダーが壊れたり、フロッピーディスクが取り出せなくなることがあります。

### ●録音内容の保護について

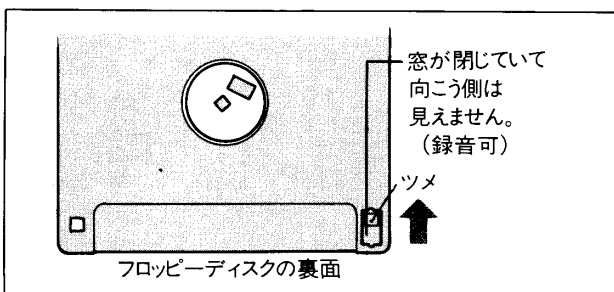
大切な録音内容を誤って消さない為に、

- フロッピーディスクのツメを図の様にスライドしておく、再録音ができなくなります。この状態を「プロテクト」といい、再生のみできるようになります。



再び録音したい場合は

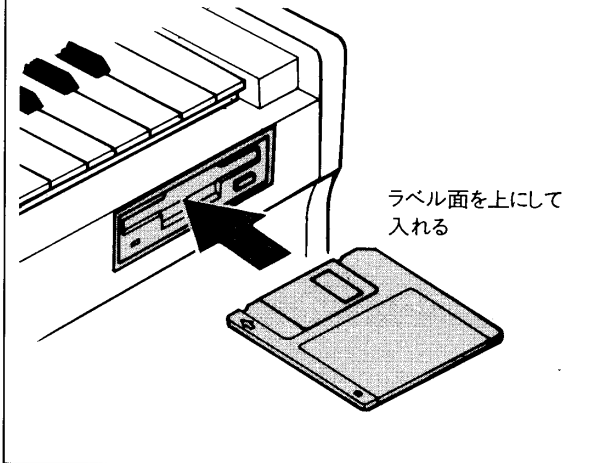
- ツメを戻せば、再び録音できます。



### ●フロッピーの出し入れ

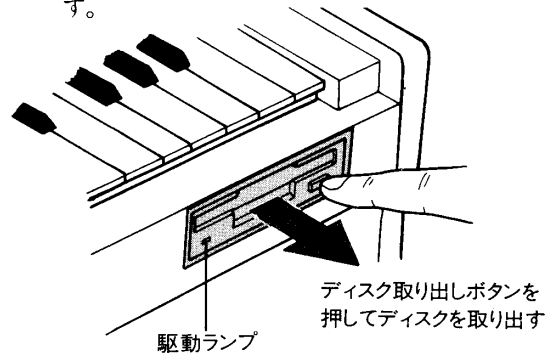
#### 1. 入れかた

図のようにラベル面を上にし、「カチャ」と音がするまでしっかり入れます。

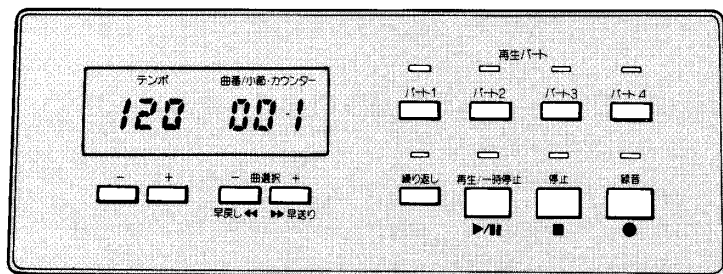


#### 2. 取り出しかた

駆動ランプが消えていることを確認した上で、ディスク取り出しボタンを押して、ディスクを取り出します。



※録音や再生中は、絶対にディスクを取り出さないで下さい。駆動ランプが点灯している時にディスクを取り出すと、録音内容が壊れる場合があります。



## フォーマットについて

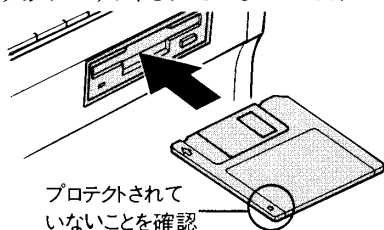
新しいフロッピーディスクを使用する場合は、「フォーマット（初期化）」と呼ばれる処理をしないと使うことができません。但し、すでに使われているフロッピーディスクをフォーマットしま

すと録音されていた全ての内容が消えてしまいますのでご注意ください。

## フォーマットの手順

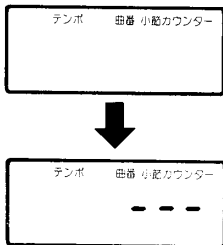
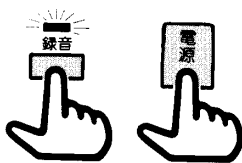
### 1. 新しいディスクを入れます。

ディスクがプロテクトされていないことを確認して下さい。

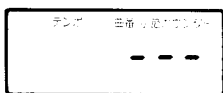
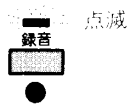


### 2. [録音] スイッチを押しながら電源スイッチを入れます。

[曲番/小節・カウンター] に[----]の表示が出るまで[録音]スイッチを押して下さい。これで、フォーマットモードになりました。



[停止] スイッチのランプが消え、[録音]スイッチのランプが点滅します。

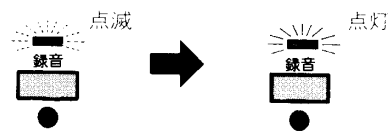


### 3. [録音] スイッチを押します。

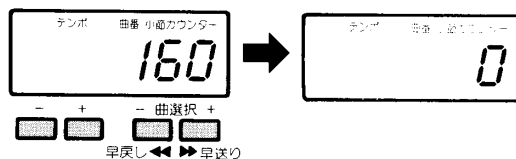


フォーマットが開始されました。

[録音] のランプが点滅から点灯に変わります。

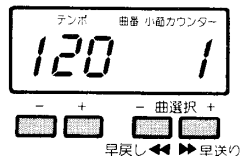


[曲番/小節・カウンター] は、トラックナンバーを[160]から[0]まで逆進表示します。



### 4. 終了

フォーマットが終了すると、[曲番/小節・カウンター]は[1]を、[テンポ]は[120]を表示し、[停止]スイッチのランプが点灯します。

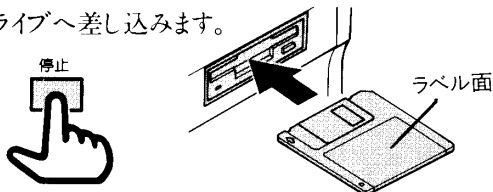


## 録音のしかた

本機での録音は、パート1 (1トラック)のみです。ディスクレコーダーを停止状態にして下さい。[停止]スイッチのランプが点灯します。

### 1. フロッピーディスクを入れます。

フォーマット済みのフロッピーディスクをディスクドライブへ差し込みます。



### 2. 曲番選択

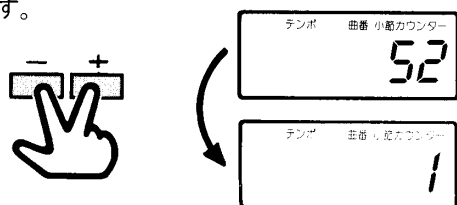
曲選択の[-]と[+]のスイッチを押して録音する曲番を選択します。

[曲番/小節・カウンター]に現在選んでいる曲番号が表示されます。



※曲番号は、1～60番まであります。60番まで行き、そのまま[+]のスイッチを押すと1番に動きます。また、スイッチを押し続けていると、自動的に曲番が増減します。

※両方のスイッチをいっしょに押すと1番に戻ります。

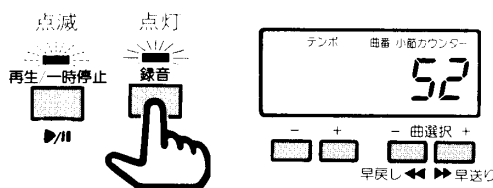


### 3. 録音モード

[録音]スイッチを押して録音モードにします。

① [録音]ランプが点灯し、[再生/一時停止]ランプが点滅の場合選んだ曲番に録音できます。

▶ 4. に進んで下さい。



② [曲番/小節・カウンター]と[録音]ランプが点滅の場合

選んだ曲番に別の演奏が録音されています。既に録音されている演奏が消えてもよい場合は、[録音]スイッチを押します。

[曲番/小節・カウンター]と[録音]ランプが点灯に変わり、[再生/一時停止]ランプが点滅します。



もし、既に録音されている演奏を消したくない場合は、[停止]スイッチを押し録音モードを中止し、[曲選択]スイッチの[-]か[+]を押して曲番を変更して下さい。

### 4. 録音

[再生/一時停止]

スイッチを押します。再生パートの[パート1]のランプが点灯します。そして、[再生/一時停止]スイッチのランプが点滅から点灯に変わり、[曲番/小節・カウンター]が動き、録音が始まります。



※ [曲番/小節・カウンター]が動きはじけると、演奏の有無にかかわらず録音は始まります。

※もし、フロッピーディスクの残量がない場合は、[曲番/小節・カウンター]に[FUL]と表示した後停止します。

### 5. 終了

録音を終了する時は[停止]スイッチを押します。[録音]と[再生/一時停止]スイッチのランプが消え、[曲番/小節・カウンター]に録音した曲番を表示し、停止します。

※録音中、フロッピーディスクの残量が少なくなると[曲番/小節・カウンター]の表示が点滅します。フロッピーディスクの残量が0になるまで録音をします。残量が0になった時点で[FUL]と表示して停止します。

# 再生のしかた

**1. フロッピーディスクを入れます。**  
録音されているフロッピーディスクをディスクドライブへ差し込みます。  
再生パートのランプが点灯します。

**2. 曲番選択**  
曲選択の[-]と[+]スイッチを押して聞きたい曲番を選択します。

**3. [再生/一時停止] スイッチを押します。**  
[停止]ランプが消え、[再生/一時停止]ランプが点灯し、再生をはじめます。

※再生中に[早戻し(-)]または[早送り(+)]スイッチを押すと、押している間そのスイッチの動作を実行し、離れた時点から再生をはじめます。

※[早送り]スイッチを押すと演奏内容を早送りで聞くことができます。しかし、[早戻し]の時は聞くことができませんので、[曲番/小節・カウンター]で確認して下さい。

※[早送り]で演奏を聞く必要のない場合は一時停止の状態です。[早送り]スイッチを押します。[曲番/小節・カウンター]が移動し、[再生/一時停止]スイッチを押した時点で表示された箇所から再生します。

**4. 一時停止**  
再生中に[再生/一時停止]スイッチを押すと一時停止になり、もう一度押すと再生をはじめます。

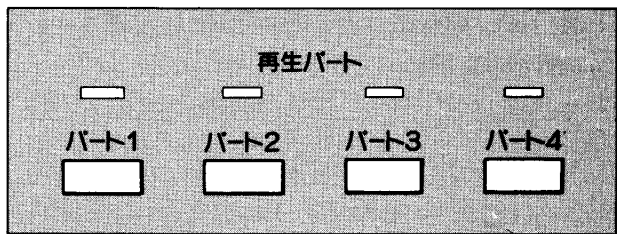
一時停止にすると、[再生/一時停止]ランプは点灯から点滅に変わります。もう一度スイッチを押すとランプは点滅から点灯に変わり、一時停止したところから再生をはじめます。

※一時停止の状態です。[早戻し]や[早送り]のスイッチを押すと[曲番/小節・カウンター]は1小節ずつ移動します。但し、SE-5000で録音したディスクは1カウント(1拍)ずつ移動します。

**5. 終了**  
曲が終了すると自動的に[停止]ランプが点灯し、停止状態になります。  
[曲番/小節・カウンター]は、再生した曲番を表示します。

## 再生パート

再生するフロッピーディスクによってはパート1～パート4の各再生パートをON/OFFすることができます。各パートのスイッチを押してON/OFFしてください。ランプの点灯しているパートの演奏が聞こえます。



## 繰り返し再生

演奏内容の一部分または1曲を何回も繰り返して聞く時に使います。繰り返しは、繰り返しの頭出しと終わりをセットします。

### ● 1曲を最初から繰り返し聞く場合

**1. 曲番選択**  
 停止状態で[曲選択]スイッチを押し、聞きたい曲番を選びます。

**2. [繰り返し] スイッチを押します。**  
 この時[繰り返し]ランプは点滅表示します。

**3. 再生スタート**  
 [再生/一時停止]スイッチを押します。再生をはじめます。

① 繰り返しの終わりをセットしない時は自動的に曲の終わりがセットされます。曲の最後までくると自動的に曲の頭に戻り再生を繰り返します。

② 繰り返しの終わりをセットする時は、繰り返したい演奏の最後のところで[繰り返し]スイッチをもう一度押します。ランプは点滅から点灯表示に変わり、演奏を最初から繰り返します。

**4. 終了**  
 繰り返しを止めたい時は、[繰り返し]スイッチを押します。[繰り返し]ランプが消え、曲の終わりまで再生して停止します。また、[停止]スイッチを押しても繰り返しを止めることができます。

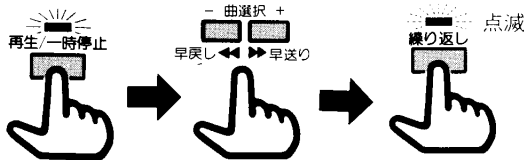
# 繰り返し再生

●曲の途中を繰り返し演奏させたい場合、2つの方法があります。

## ①繰り返し演奏させたい曲の頭出し位置がわからない時

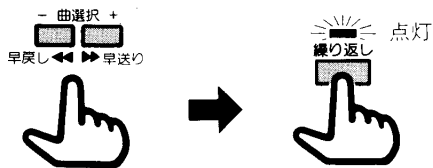
### 1. 演奏の始めをセット

[再生/一時停止]スイッチを押した後、[早送り]または[早戻し]スイッチを押して繰り返したい演奏の頭を探し、[繰り返し]スイッチを押します。[繰り返し]スイッチのランプが点滅します。



### 2. 演奏の終わりをセット

もう一度、[早送り]または[早戻し]スイッチを押して、繰り返したい演奏の終わりを探し、[繰り返し]スイッチを押します。ランプは点灯状態になり、そのまま繰り返し演奏が行われます。

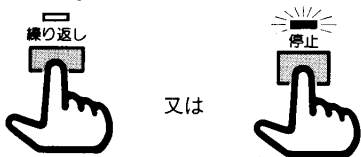


### 3. 終了

繰り返しを止めたい時は、[繰り返し]スイッチを押します。

[繰り返し]ランプが消え、曲の終わりまで再生して停止します。

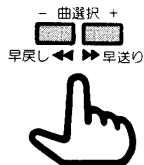
また、[停止]スイッチを押しても繰り返しを止めることができます。



## ②繰り返し演奏させたい曲の頭出し位置がわかっている時

### 1. 曲番選択

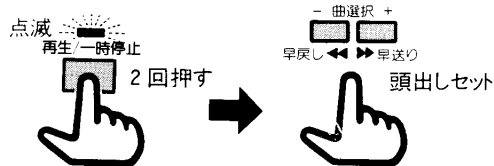
停止状態で[曲選択]スイッチを押して、聞きたい曲番を選びます。



### 2. 曲の頭出しをセット

[再生/一時停止]スイッチを2回押して一時停止状態にします。

[早送り]または[早戻し]スイッチを押して繰り返し演奏させたい曲の頭出しを[曲番/小節・カウンター]でセットします。



### 3. [繰り返し]スイッチを押します。

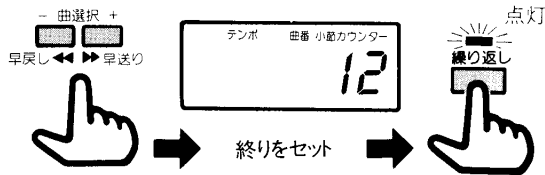
[繰り返し]スイッチのランプが点滅します。



### 4. 演奏の終わりをセット

もう一度、[早送り]または[早戻し]スイッチを押して、繰り返したい演奏の終わりを[曲番/小節・カウンター]でセットし、[繰り返し]スイッチを押します。

ランプは点灯状態になります。



### 5. 再生スタート

[再生]スイッチを押してください。繰り返し演奏が行われます。



### 6. 終了

繰り返しを止めたい時は、[繰り返し]スイッチを押します。

[繰り返し]ランプが消え、曲の終わりまで再生して停止します。

また、[停止]スイッチを押しても繰り返しを止めることができます。

## テンポについて

本機は常にテンポスピードを表示します。  
テンポの可変範囲は ♩ = 32~280 です。  
本機の電源を入れますと [120] と表示します。テンポの [ - ] と [ + ] スイッチを押すとテンポスピードを増減できます。[ - ] スイッチを押すとテンポスピードは遅くなり、[ + ] スイッチを押すとテンポスピードは速くなります。[ - ] [ + ] 両方のス

イッチをいっしょに押すと初期設定の [120] に戻ります。  
テンポスピードは、ディスクレコーダーの録音の時記録されますので、再生の時記録されたテンポスピードを表示します。また、テンポスピードは、録音再生の時 [ - ] と [ + ] のスイッチを押して自由に変えることができます。

## エラーメッセージについて

[曲番/小節・カウンター]のLEDにエラーの内容が点滅表示されるとともに[停止]ランプが点滅します。次の表でエラー内容を確認し、必要に応じて処置を行って下さい。

もし、処置の必要のない場合は[停止]スイッチを押して下さい。  
但し、プロテクトエラーの場合は、[Pro]と1秒間表示した後[停止]ランプが点灯し、停止状態になります。

### エラーメッセージ

表 示	原 因	処 置
<b>For</b> (F o r) フォーマット ・エラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマットされていないディスクが挿入されています。</li> <li>・フォーマットの異なるディスクが挿入されています。</li> </ul>	フォーマットをして下さい。 (フォーマットを行うと録音済みのデータは消えます)
<b>Err</b> (E r r) エラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスクに異常があります。</li> <li>・録音・再生時に異常があります。</li> </ul>	別の新しいディスクにかえて下さい。
<b>Pro</b> (P r o) プロテクト・ エラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生専用ディスクに録音しようとしています。</li> <li>・ディスク裏面のツメが録音不可側(プロテクト側)にセットされているディスクに録音しようとしています。</li> </ul>	再生専用ディスクには録音できません。別のディスクにかえて下さい。  ディスクのツメを録音可能側に変更して下さい。
<b>FUL</b> (F U L) フル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスクのメモリー容量がなくなりました。</li> </ul>	新しくフォーマットしたディスクと交換して下さい。

# MIDIについて

## MIDIとは…?

学校用オルガンSE-5000には、先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方のできるMIDI端子がっています。このMIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interface(ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)を略したもので、電子楽器どうしをMIDIケーブルで接続し、音程や音の長さといった演奏の情報などをお互いに交換するためのものです。また、MIDIは世界の電子楽器の統一規格ですから、どこのメーカーの製品でも、MIDI端子がついていれば演奏情報の交換をすることができます。

## 接続方法について

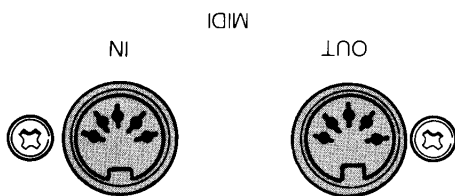
SE-5000のMIDI端子には、OUT端子(送信側)とIN端子(受信側)があります。

接続は、専用のMIDIケーブルを使いますが、オーディオのDINケーブルと酷似していますので注意して下さい。なお、オーディオのDINケーブルをMIDI端子には絶対接続しないで下さい。故障の原因になります。

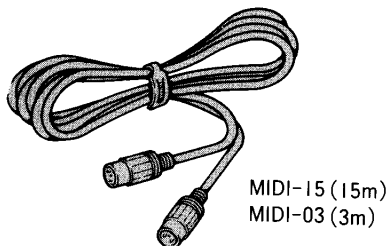
SE-5000から演奏の情報を送る場合はOUT端子に、情報を受けてSE-5000の音源を使って音をだす場合はIN端子に接続して下さい。(MIDIを使って情報交換できるのは、あらかじめMIDI端子をそなえた機器に限られます。)

※MIDIケーブルをSE-5000のMIDI IN端子に接続しますと、ディスクレコーダーの再生機能は動かなくなります。

### MIDI-IN/OUT端子



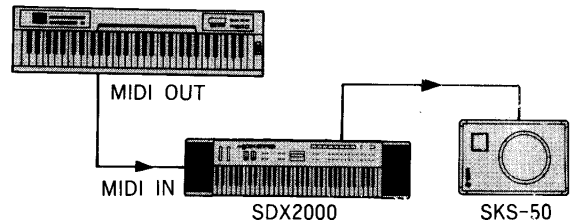
### 接続に使うMIDIケーブル



## 楽しみ方の例

### ●SE-5000を演奏して他のキーボードとアンサンブル

例：デジタルシンセサイザーSDX2000との接続



※SDX2000はモニタースピーカーを内蔵していますが、キーボードアンプを使用することで、より迫力あるサウンドが得られます。

図のようにSE-5000のMIDI OUTとSDX2000のMIDI INを接続すれば、SE-5000を演奏するとSDX2000からも音を出すことができます。

つまり、SE-5000の鍵盤を押さえた情報が瞬時にSDX2000に伝わり、音程や音の長さなどの同じ音がSDX2000からでて、厚みのある演奏ができるのです。この時、音色は別々に指定できますので、SE-5000のピアノの音色にSDX2000のストリングス系の音色を組み合わせると楽しむなど、工夫次第でいろいろなアンサンブルをつくりだすことができます。

### ●QX3を使って多重録音

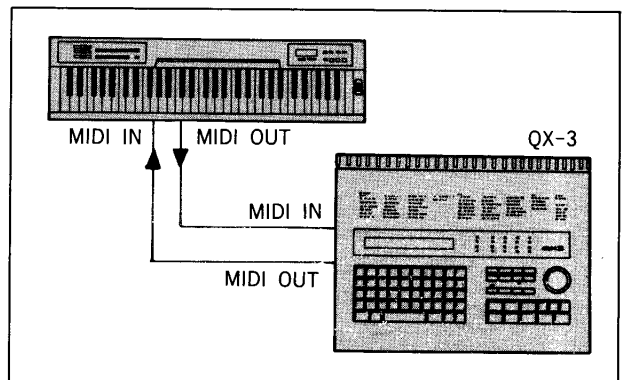
ヤマハデジタルシーケンズレコーダーQX3を使って、多重録音をすることができます。

本機のMIDI OUTとQX3のMIDI INをMIDIケーブルで接続します。

本機の再生パートは、パート1が1CH、パート2が2CH、パート3が3CH～10CH、パート4が15CHです。ただし、パート4はリズム専用です。

QX3のMIDIチャンネルをSE-5000の各再生パートのMIDIチャンネルにセットし、パートごとに録音します。

QX3の操作方法については、QX3の取扱説明書をご覧下さい。





## MIDI参考資料

### ●MIDIエクスクルーシブメッセージ

(リバーブモード認定)

[F0H] [43H] [73H] [01H] [11H]

[0xH] [59H] [ddH] [F7H]

[43H] :YAMAHA

[73H] :CLAVINOVA

[01H] :ID No.

[11H] :SK

[0xH] :Control MIDI Channel

(送信は16CHに固定)

[59H] :Reverb

[ddH] :Value

Valueの [ddH]

00H:off

01H:Room

02H:Hall 1

03H:Hall 2

04H:Cosmic

### ●リズム音源キーコード対応表 (15CH固定で受信のみ)

楽器名	k k	楽器名	k k
BRUSH ROLL	1EH, 51H	CRASH CYMBAL	38H, 3AH, 4FH
HH CLOSED HEAVY	20H	E. TOM 2	39H, 4DH
CRASH CYM LIGHT	22H	E. TOM 1	3BH
B. DRUM LIGHT	23H	CONGA LOW	3CH
SD + RIM HEAVY	24H	CABASA	3DH
RIDE CYMBAL CUP	25H	CONGA HIGH	3EH
SD + RIM LIGHT	26H	METRONOME	3FH
BASS DRUM	29H	BONGO	40H
RIM SHOT	2AH	TIMBALE LOW	41H
SNARE HEAVY	2BH	CLAVES	42H
BRUSH SHOT	2CH	TIMBALE HIGH	43H
SNARE LIGHT	2DH	CASTANETS	44H
HH PEDAL	2EH	CUICA LOW	45H
SNARE ECHO	2FH	COWBELL	46H
TOM 4	30H	CUICA HIGH	47H
HH CLOSED	31H	HAND CLAPS	48H
TOM 3	32H	AGOGO LOW	49H
HH OPEN	33H	AGOGO HIGH	4BH
TOM 2	34H	BONGO LOW	4CH
TOM 1	35H	TAMBOURINE	4EH
RIDE CYMBAL	36H	TRIANGLE CLOSE	50H
E. TOM 3	37H	TRIANGLE OPEN	52H

(16進法)

### ●音色リスト (SE-5000専用ディスク及びクラビノーバディスクオーケストラ再生用:MIDI受信時のみ)

音色名	d d	Pitch Bend対応	音色名	d d	Pitch Bend対応
PIANO 1	0CH, 2FH, 30H, 44H	×	E. BASS 2	1EH	○
PIANO 2	33H	×	SYNTH BASS 1	1FH	○
HONKY TONK PIANO	31H	×	UPRIGHT BASS 1	1CH	○
E. PIANO 1	0DH	×	VIOLIN/CELLO	09H	×
E. PIANO 2	32H	×	PIZZICATO	38H	×
SYNTH PIANO	34H	×	STRINGS 1	08H, 3EH	×
CELESTA	0FH	×	SYNTH STRINGS	2DH	×
MARIMBA	11H	×	TRUMPET/TROMBONE	01H	○
VIBES	10H, 13H	×	MUTE TRUMPET	28H	○
SYNTH CRYSTAL	16H	×	HORN	02H	×
CLAVI	12H	○	BRASS 1	00H, 3CH	○
JAZZ ORGAN 1	0BH, 41H	×	SAX	03H, 43H	○
ROCK ORGAN	2BH	×	CLARINET	04H	×
PIPE ORGAN	0AH, 40H	×	FLUTE	06H, 3DH	×
ACOU. GUITAR	18H	×	OBOE	05H	×
JAZZ GUITAR	19H	○	HARMONICA	29H	×
ROCK GUITAR 1	1AH	○	ACCORDION	07H	×
ROCK GUITAR 2	36H	○	SYNTH 1	14H, 42H	○
BANJO	37H	×	SYNTH 2	2CH	×
HARP	39H	×	TIMPANY FOR DOC	17H, 3AH	×
HARPSICHORD 1	0EH, 35H, 1BH	×	CHOIR	2AH, 3FH	×
E. BASS 1	1DH	○	SYNTH VOX 1	2EH	×

(16進法)

○:対応する ×:対応しない

## SE-5000 MIDI インプリメンテーションチャート

【学校用オルガン】  
Model SE-5000

MIDI インプリメンテーションチャート

Date :1990.5.7  
Version :1.0

ファンクション		送	信	受	信	備	考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル ×		1-15チャンネル ×			
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 ×		モード1 ×			
ノートナンバー	音域	36-96 *****		21-108 21-108			
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 90H, V=96 ○ 90H, V=0		○ V=1-127 ○ 9nH, V=0, 8nH			
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	×		×			
ピッチベンダー		×		○			
コントロール チェンジ	01 07 11 64 67	○ × ○ ○ ×		○ ○ ○ ○ ○		モジュレーション ボリューム エグスプレッション ダンパーペダル ソフトペダル	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 70H-7FH *1 *****		○			
エクスクルーシブ		○		○			
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×		×			
リアルタイム	クロック コマンド	×		×			
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	×		×			
備考		*1:70H: ピアノ 71H: リードオルガン 72H: パイプオルガン 73H: ハープシコード 74H: グロッケン 75H: 箏 76H: フルート 77H: オーボエ		78H: クラリネット 79H: トランペット 7AH: ホルン 7BH: チューバ 7CH: バイオリン 7DH: ストリングス 7EH: コントラバス 7FH: ピッチカートバス			

モード1: オムニ・オン、ポリ  
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ  
モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり  
×: なし

## 故障とお考えになる前に

故障ではないかとお思いになったら、下記の事項をご確認下さい。それでも正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は電源スイッチを切り、電源プラグ

をコンセントから外して、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼下さい。

どんな状態ですか	ここが原因	こうすればOKです
音がまったく出ない。	エクスプレッションペダルが踏み込まれていない。	適切な音量にセットして下さい。
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	ごく近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、電気ドリルなどを使っている。	原因と思われる電気器具からなるべく離れたコンセントを使って下さい。
ラジオやテレビなどに雑音が入る。	本機のごく近くでラジオやテレビなどを使っている。	なるべく離れたコンセントをお使い下さい。
音が割れる。 (共鳴する、あるいはビリつく)	オルガンの音は持続音が多いため周囲の戸棚、窓ガラス、その他の器物に共鳴して音が割れて聞こえることがあります。	音量を小さくするか共鳴物を取り除いて下さい。
録音できない。	フロッピーディスクが差し込まれていない。 フォーマットされていない。 フロッピーディスクの誤消去防止のツメが保護側になっている。	フロッピーディスクを差し込んで下さい。 フォーマットして下さい。 フロッピーディスクのツメを非保護側にして下さい。
再生できない。	録音されていない曲番を選択した。  消去済みの曲を再生しようとしている。 ディスクのフォーマットが違う。	録音されている曲番を選択し直して下さい。

# 保証とサービス

## 保証とサービスについて

### 1. 保証

オルガンの保証は、保証書によりご購入日から満1ヶ年で  
す。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別は致しません。  
また、保証は日本国内のみ有効と致します。

### 2. 保証書

オルガンの納入調整サービスの際、技術者が保証書内  
へ必要事項記入のうえ、発行致しますので記載事項をご  
確認下さい。

### 3. 保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がオルガンをご購入頂いたお客様にご購  
入の日から向う1ヶ年の無償サービスをお約束申し上げる  
ものです。万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費  
を頂くことがございますので必要に応じて、いつでもご提示頂  
けますよう保管して下さい。

また、後々のサービスに際しての機種判別やサービス依  
頼店の確認にご利用頂けますし、調整記録を記入する欄も  
ございますので、保証期間が過ぎましても大切に保管して下  
さい。

### 4. 納入点検調整サービス

オルガンをお納めさせて頂きますと、楽器店の技術者が楽  
器のご説明かたがたオルガンを最良の状態にするよう点検  
調整にお伺い致します。

お求めのオルガンについて、ご不明の点およびお聞きになり  
たい事がありましたらその節にお申しつけ下さい。

### 5. 保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、お買  
い求めいただいた楽器店にご連絡頂きますと、楽器店  
またはヤマハの技術者が調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした時に今後貴重な資  
料とするため一時技術者がお預りさせて頂きます。  
お預りした保証書は、弊社サービスセンターに送られ、  
必要事項を記録した後直接お客様にご返送申し上げ  
ます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、  
ご心配なくお待ち下さるようお願い申し上げます。

### 6. 保証期間後のサービス

満1ヶ年の保証期間が切れますとサービスは有料となります  
が、引続き責任を持ってサービスさせて頂きます。補修用性  
能部品（製品本来の機能を維持する為に必要な部品）の  
最低保有期間は8年となっております。

### 7. サービスをご依頼になる前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、他の電気製品を  
接続してお確かめ下さい。
2. ご依頼頂いたサービスにお伺いした際、故障でないよ  
うな場合には、点検代と出張経費などの実費を頂きます。

### 8. サービスのお約束について

1. できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂き  
ます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できる  
だけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡下さい。
3. サービスご依頼後、日時が経過してもなお技術者が  
お伺いしない場合はお手数でも最寄りの右記サービ  
スセンターまでご連絡下さい。責任を持って処理させ  
て頂きます。

## ヤマハのサービスネット

全国のヤマハ特約楽器店と下記サービスセンターが責任を持ってアフターサービスを行っております。

### ●修理受付および修理品お預り窓口

北海道サービスセンター	TEL.011(513)5036 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 (ヤマハセンター内)
仙台サービスセンター	TEL.022(236)0249 〒983 仙台市若林区卸町5-7(仙台卸商共同配送センター3F)
首都圏サービスセンター	TEL.044(434)3100 〒211 川崎市中原区木月1184
東京サービスステーション	TEL.03(5488)6625 〒108 東京都港区高輪2-17-11
新潟サービスステーション	TEL.025(243)4321 〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F)
浜松サービスセンター	TEL.053(465)6711 〒435 浜松市上西町911(ヤマハ(株)宮竹工場内)
名古屋サービスセンター	TEL.052(652)2230 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2(ヤマハ(株)名古屋流通センター3F)
大阪サービスセンター	TEL.06(877)5262 〒565 吹田市新芦屋下1-16 (ヤマハ(株)千里丘センター内)
四国サービスセンター	TEL.0878(22)3045 〒760 高松市丸亀町8-7 (ヤマハ(株)高松店内)
広島サービスセンター	TEL.082(874)3787 〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39
九州サービスセンター	TEL.092(472)2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/カスタマーサービス部	TEL.053(465)1158 〒435 浜松市上西町911 (ヤマハ(株)宮竹工場内)

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

# YAMAHA

ヤマハ株式会社

- |          |  |
|----------|--|
| 国内楽器営業本部 | 〒430 浜松市中区町10-1<br>管教育楽器営業部 TEL.053(460)2405       |
| 北海道支店    | 〒064 札幌市中央区南10条西1-1 ヤマハセンター<br>TEL.011(512)6113    |
| 仙台支店     | 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル<br>TEL.022(222)6146 |
| 関東支店     | 〒108 東京都港区高輪2-17-11<br>TEL.03(5488)1689            |
| 東京支店     | 〒108 東京都港区高輪2-17-11<br>TEL.03(5488)1672            |
| 名古屋支店    | 〒460 名古屋市中区鎮1-18-28<br>TEL.052(201)5166            |
| 大阪支店     | 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館<br>TEL.05(252)5341 |
| 広島支店     | 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18<br>TEL.082(244)3771            |
| 九州支店     | 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4<br>TEL.092(472)2155          |